

Entertainer



山口 和範

(社)埼玉県不動産鑑定士協会

年の端 30 歳にもなると友人の結婚式も一段落し、御祝儀による可処分所得への圧力から解放され、こうしたゆとりにより低金利、減税政策を追い風に、消費嗜好は住宅取得へと向かい始める頃合となる。

振り返ると私は結婚披露宴に出席し、静かに座して食を堪能し無事終えた機会などほんの数回しか経験していない。ほとんどの披露宴において、私（私達）は真打を飾るメインの余興を担当してきた。

皆さんも観覧経験があるかと思うが、体育会系の余興は大抵「裸」になって行われ、古今東西に通じる笑いを追求する。我々も御多分に漏れず、若かりし頃に鍛えた肉体を思う存分に披露し、自分の披露宴でももらったことへの恩返し（仕返し）とばかりにダンスを中心とした Show で盛り上げる。

そんな数多くの余興経験の中、ある時、他の余興団体と曲が全く被ってしまったことがあった。この時は大学の友人の披露宴で、我々は大取りから二番目の余興を担当することになり、リッキー・マーティンの「Livin'La Vida Loca」を選曲して、回し着用の力士ダンスでかなり盛り上がった。そして我々が控室に退散したその時、事件は起きた...今まで流れていた曲と同じ前奏が再び会場内に流れてきたのである。

我々はアンコールかと思い、全員がビクッと反応してしまったが、大取りを飾る新郎の会社の友人 10 人程が法被を着てその控室から出て行った。そう、彼等の選曲は郷ひろみが日本語でカバーした、あの「GOLDFINGER'99」だったのである。この時は列席者も「また奴等が来たのか？」と感じていたそうである。

そしてまたある時には、「名演出家」の名を私が恣にした余興があった。この時は高校の友人の披露宴で、新郎と新婦の出会いを事前に入念にデュー・デリジェンスし、それを小劇に仕立て上げ、部活仲間 10 人程で演技した。劇そのものも大爆笑で高い評価を得たのだが、それ以上に私が期待した隠し球が見事に的中した。

練習の段階で遅れてきた者が2名いたのだが、残り時間で覚えるにはかなり内容の濃いものだったので、私は罰を兼ねた秘策を考え、彼等を有効活用することを考えた…。

幕が開き、遅刻した2名も一緒に禪姿で入場させる。しかし、彼等にはその後の演技をさせず、列席者同様そのまま席に着かせてしまった。そして、一通りの演技を終えた後、見学していた彼等も一緒になって退散させた。つまり、前代未聞の「みそっかす」役として彼等を活かしたのである。

これが列席者を「裸の彼等は一体何をするのだろうか？」という期待感から「あれっ？終わっちゃったよ…裸の彼等は一体何だったの？」という虚無感へと心理的变化を招く玄人好みの笑いへと誘うことに見事に成功した(これ以後、彼等は遅刻を一切しなくなった。)

こうした余興は、交友関係から伝わる新郎の本質を新婦は固より、親族、会社の上司等列席者全てに紹介する上で非常に有効な方策である。

我々もそのことを多少は意識しつつも、単なる自己満足の意味もあって、老若男女の笑いを取れるよう、それぞれ熱心にネタを作り、限られた時間の中練習し、そして本番を迎える。始まる前は試合さながら円陣を組み、気合いを入れて発進していく。終わって会場を後にした時には、全員で大成功の握手・抱擁を交わし、お互いを讃え合う。

このようにある一つのことにほんの一時でも全員が丸となって情熱を傾け、チームワークが深まることは昔も今も変わらず、たかが余興の一つが新郎を含めた我々仲間の友情の再確認となり、人生における一つの自信を掴んで、各自またこれからの厳しい現実社会に向かって羽ばたいていく。

ここで一句、

「めでたさに ともに盛り上ぐ 花の宴」

(次回は、(社)福岡県不動産鑑定士協会の「小萬田久子さん」こと石田美紀子さんをお願いします。)